



**道**頓堀川は、17世紀に安井道頓、道朴によって開削された運河で、現在、大阪市の南部市街地に残された貴重な水辺空間となっています。かつては船の通行や田畑の灌漑用水などに利用され、町の発展に役割を果たしていました。しかし、近年では治水対策のための護岸の嵩上げや水質汚濁によって道頓堀川は町と隔たった存在となっていました。

近年、大阪市が掲げるまちづくりの目標「水の都・大阪」再生の一つに道頓堀川水辺整備事業が位置づけられ、道頓堀川の水辺に親水性の高い遊歩道の整備が進められています。



**平**成16(2004)年12月に戎橋・太左衛門橋間に片側8m程度の幅で上下2段構造の遊歩道が整備されました。整備された遊歩道は総数1004作品の応募の中から選ばれた『とんぼりリバーウォーク』という愛称名で呼ばれています。



かつての道頓堀川 (年代不明)



近年の道頓堀川 (2006年)

平成23(2011)年1月現在も継続した建設工事が実施されており、最終的には複合施設の湊町リバープレイス(浪速区)から、上大和橋(中央区)までの1.3kmを遊歩道で結ぶ計画です。

また、太左衛門橋付近に船着き場が整備されており、現在は大阪市内を巡る遊覧船の発着場として、利用されています。

整備された親水性の高い遊歩道には沿川の店舗への出入りが設けられ、将来は水辺に沿った新しいまちなみの創出が期待されています。

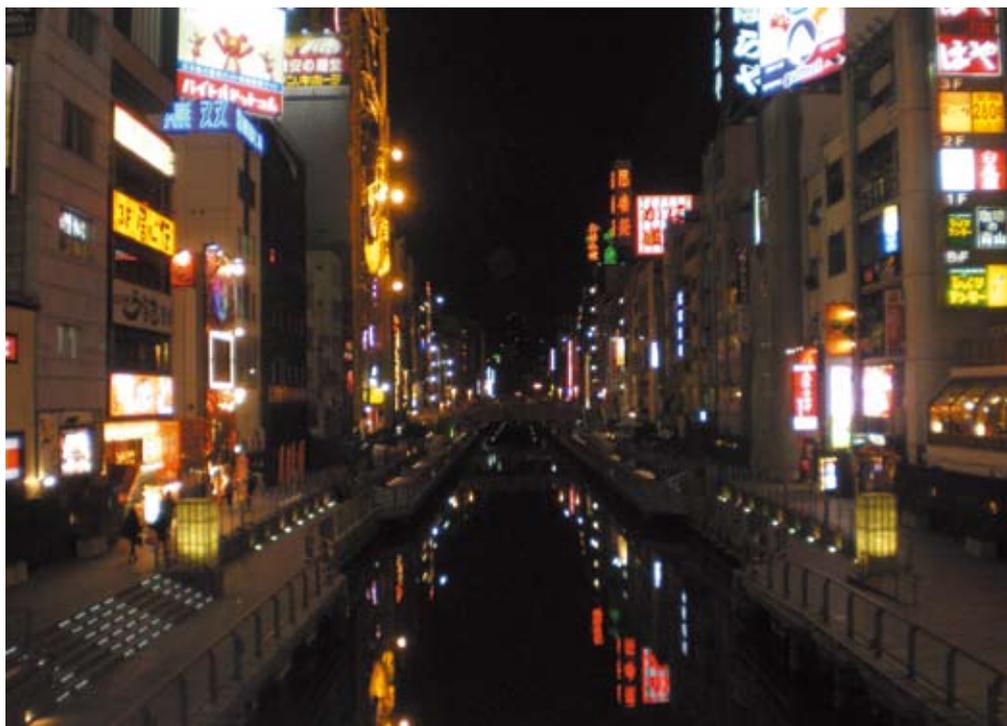


水辺の遊歩道整備後

● 河川再生の基本的方向 ●

川とまちをつなぐ	大阪の都心部を東西につなぐ歩行者動線の創出
川をオープンスペースとして整備する	沿川の土地利用に合わせたイベント広場や公園など、憩いと集いの場の提供
水面を活用する	水位の一定化と、舟運の活性化
水質改善を行う	ウォーターカーテンや噴水などの設置

このリバーウォークは管理組織への申請・許諾があれば、伝統文化に根ざしたもの、地域活性化に貢献するもの、ストリートパフォーマンスや販売促進イベント等の各種イベントの開催場所として利用でき、これまでもまちの賑わいづくりに寄与する灯籠流しや盆踊り大会等、様々なイベント会場として活用されています。



道頓堀川の夜景